

平成29年1月24日

消費生活用製品の重大製品事故に係る公表について

消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告のあった重大製品事故について、以下のとおり公表します。

○特記事項あり

扇風機、石油温風暖房機（開放式）、リチウム電池内蔵充電器、電気ストーブ（カーボンヒーター）に関する事故（リコール対象製品）について

（詳細は次頁以降参照。）

- | | |
|---|-----|
| 1. ガス機器・石油機器に関する事故
（うち石油温風暖房機（開放式）1件、
石油ストーブ（開放式）1件） | 2件 |
| 2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、
製品起因が疑われる事故
（うち扇風機5件、エアコン2件、リチウム電池内蔵充電器1件、
凍結防止用ヒーター（水道用）1件、
電気ストーブ（カーボンヒーター）1件） | 10件 |
| 3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、
製品起因か否かが特定できていない事故
（うち靴（ポンプス）1件） | 1件 |
| 4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故調査判定合同会議（※）
において、審議を予定している案件
該当案件無し | |

1. ～ 4. の詳細は別紙のとおりです。

※正式名称は「消費者安全調査委員会製品事故情報専門調査会及び消費経済審議会製品安全部会製品事故判定第三者委員会合同会議」という。

5. 留意事項

これらは消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づく報告内容の概要であり、現時点において、調査等により事実関係が確認されたものではなく、事故原因等に関し、消費者庁として評価を行ったものではありません。

（管理番号：A201300110、A201400238、A201400356、A201600133、A201600277を除く。）

本公表内容については、速報段階のものであり、今後の追加情報、事故調査の進展等により、変更又は削除される可能性があります。

6. 特記事項

(1) パナソニック エコシステムズ株式会社が輸入し、パナソニック株式会社が販売した扇風機の新規リコールについて

(管理番号：A201300110、A201400238、A201400356、A201600133、A201600277)

(経済産業省と同時公表)

① 事故事象について

パナソニック エコシステムズ株式会社（法人番号：8180001075388）が輸入し、パナソニック株式会社が販売した扇風機について、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生しました。

これらの事故情報は、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき、重大製品事故の報告を受け、製品起因が疑われる事故として公表していたものです（別紙参照。）。

当該事故の原因は、管理番号A201400238、A201600133及びA201600277については、当該製品のモーター組み付け工程において、モーターリード線を首振り部の部品に挟み込んだため、芯線の一部が断線し、使用時の首振り運転に伴い断線が進行して接触不良により異常発熱し、モーターリード線の異極間で短絡、スパークし、出火に至ったものと考えられます。

また、管理番号A201300110及びA201400356については、いずれも製品内部のモーターリード線が断線し、短絡、出火に至ったと考えられますが、詳細な原因の特定には至らなかったものとして、調査を終了しています。

対象製品について、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告された重大製品事故は5件です。

② 再発防止策について

同社は当該製品を含む対象製品（下記③）について、事故の再発防止を図るため、本日（1月24日）、ウェブサイトへの情報掲載を行うとともに、翌25日に新聞社告を行い、対象製品をお持ちの方に対し、無償製品交換及び設置を実施します。

③ 対象製品：製品名、品番、製造期間、対象台数

製品名	品番	製造期間	対象台数
扇風機	F-GA301	2008年10月 ～ 2014年12月	146,797

＜対象製品の確認方法＞

引きひもタイプ
羽根径30cm

① ブランド
↓
Panasonic

② 製品品番
↓
F-GA301

③ 製造年ラベル

【製造年】
...2014年...

【設計上の標準使用期間】
12年

設計上の標準使用期間を超えて使用されますと、経年劣化による発火・けがなどの事故に至るおそれがあります。

扇風機 Electric Fan

下記の①～③のすべてに該当するものが対象製品です。

①	ブランド	Panasonic
②	製品品番	F-GA301
③	製造年ラベル	ラベルなし または 2009年～2014年

※「National」ブランドの製品は今回の対象期間より前の製造となるため対象外です。
※2008年10月～2009年3月の生産品は製造年ラベルが貼り付けてありません。

④事業者の対応

対象製品について、無償製品交換及び設置を実施します。

⑤事業者の告知

ウェブサイトへの情報掲載：2017年1月24日（火）

販売店等への協力要請：2017年1月24日（火）以降順次

新聞社告：2017年1月25日（水）

⑥使用者への注意喚起

対象製品をお持ちの方は、直ちに使用を中止し、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください（2017年1月24日から受付を開始。）。

【問合せ先】

パナソニック エコシステムズ株式会社 壁掛扇風機市場対策室

電話番号：0120-872-136（無料）

※携帯電話・PHSからも利用できます。

受付時間：9時～21時（毎日）（2017年2月23日まで）

9時～17時（土・日・祝日を除く。）

（2017年2月24日以降）

ウェブサイト：<http://panasonic.co.jp/es/peses/kfan/>

(2)株式会社コロナが製造した石油温風暖房機（開放式）について（管理番号：A201600604）

①事象について

建物を全焼する火災が発生し、1名が死亡し、1名が重傷を負いました。現場に株式会社コロナ（法人番号：5110001014116）が製造した石油温風暖房機（開放式）がありました。当該事故の原因は、現在、調査中です。

②当該製品のリコール（無償点検・修理）について

同社は、当該製品を含む2000年（平成12年）以前に製造された石油ストーブ及び石油温風暖房機（石油ファンヒーター）（下記③）に付属する給油タンク（よごれま栓タンク）について、長期間の使用による給油口の変形などの要因により、給油口がロックされたと使用者が誤認する「半ロック状態」になる事象が発生する可能性があることから、事故の再発防止を図るため、2008年（平成20年）9月17日にプレスリリース及びウェブサイトへ情報を掲載し、翌18日に新聞社告を行うとともに、販売店の店頭及び消費者へのアフターサービス訪問時におけるチラシ配布や、テレビCM等により、石油ストーブ等に付属する給油タンク（よごれま栓タンク）使用時の注意喚起を行い、無償点検及び修理（給油口蓋の半ロック状態を防止するため、蓋の開閉ちょうつがい部にスプリング機能を追加）を実施しています。

なお、今般報告のあった当該事故（管理番号：A201600604）が上記のリコール事象によるものかどうかは現時点では不明です。

③対象製品：製品名、型式、製造台数、製造期間

- ・製品名：コロナ石油ストーブ等に付属の給油タンク（よごれま栓タンク）
- ・型式：2000年（平成12年）以前に製造されたコロナ石油ストーブ等で、下表に示す型式に該当するもの
- ・製造台数：石油ストーブ 2,090,000台
石油ファンヒーター 4,270,000台
計 6,360,000台

1) 石油ストーブ（反射型）

製造期間	型 式			
1987	SX-1800DX	SX-2200DX		
1988	SX-1800	SX-2200	SX-1800DXA	SX-2200DXA
1989	SX-1810	SX-2210	SX-3000	
1990	SX-1820	SX-2220	SX-3020	
1991	SX-1840	SX-2240	SX-3040	
1992	SX-1850	SX-2250	SX-2250X	SX-3050
1993	SX-1860	SX-2260	SX-3060	
1994	SX-1870	SX-2270	SX-3060	
1995	SX-1880Y	SX-2280Y	SX-3080Y	
1996	SX-1800Y	SX-2200Y	SX-3080Y	NX-22Y
	RX-D18Y			
1997	SX-B21Y	SX-B26Y	SX-B35Y	SX-B27WY
	NX-26Y	RX-B21Y	RX-B26Y	
1998	SX-C210Y	SX-C260Y	NX-26Y	
1999	SX-D27WY			
2000	SX-E210Y	SX-E260Y	SX-E21Y	SX-E26Y
	SX-B35YA	SX-D27WYA	NX-26YA	KM-D27WY

2) 石油ファンヒーター

製造期間	型 式			
1993	FH-3360AYL			
1994	FH-2570Y	FH-3270Y	FH-3370AYL	GT-2570Y
	GT-3270Y	FK-F250	FK-F320	KH-A25Y
	KH-A32Y	KH-3207Y		
1995	FH-2580Y	FH-3280Y	FH-5580Y	FH-2580AY
	FH-3380AY	NH-2580Y	NH-3280Y	GT-2580Y
	GT-3280Y	KH-B25Y	KH-B32Y	FK-G250
	FK-G320	AH-3280Y		
1996	FH-A30Y	FH-A37Y	FH-A47Y	FH-A60Y
	FH-A30AY	FH-A37AY	NH-A30Y	NH-A37Y
	GT-A30Y	GT-A37Y	GT-A30YJ	KH-A30WS
	KH-A37WS	KH-C30Y	KH-C37Y	FK-H30
	FK-H37			
1997	FH-B30AY	FH-B37AY	FH-B30BY	FH-B40BY
	FH-B50BY	FH-B62Y	NH-B30BY	NH-B40BY
	GT-B30BY	GT-B40BY	KH-B30WS	KH-B40WS
	KH-D30BY	KH-D40BY	FK-J30	FK-J40
1998	FH-C320BY	FH-C430BY	FH-C530BY	GT-C30Y
	GT-C32BY	GT-C53BY	FK-K32	FK-K53
	KCF-A300			
1999	FH-D320BY	FH-D430BY	FH-D530BY	FH-MD30Y
	GT-D30Y	GT-D32BY	GT-D43BY	GT-D53BY
	GT-EG30Y	GT-KS30Y	FK-L30	FK-L32
	FK-L43	FK-L53		
2000	FH-E62Y	FH-EX32BY	FH-EX43BY	FH-EX53BY
	FH-ES32BY	GT-E30Y	KM-30Y	KS-E30Y
	FK-M30	FK-M32	FK-M43	FK-M53
	FJ-V30Y			

2008年（平成20年）9月17日からリコール（無償点検・修理）を実施
 改修率：2.1%（2016年12月31日時点）

<リコール対象製品での事故件数>

当該事故（管理番号：A201600604）発生以前の、対象製品におけるリコール対象の内容による2010年度以降の事故（原因調査中でリコール同事象と考えられるもの及びリコール事象かどうか不明なものを含む。）の件数は、次のとおりです。これらは、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告を受けたものです。

年度	事故件数	被害状況	年度	事故件数	被害状況
2016年度	1	火災	2012年度	1	火災
2015年度	1	火災	2011年度	0	—
2014年度	2	火災	2010年度	1 1	火災・軽傷 火災
2013年度	1	火災			

<対象製品の外観及び確認方法>

1) 対象製品の外観

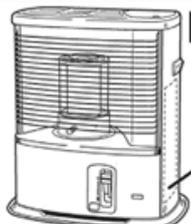


(写真はGT-A30Y)



(当該製品の給油タンク)

2) 対象製品の確認方法

	【製造年の表示位置】	【対象製品の製造年】	(1987年製から1995年製の製品 には製造年表示がありません。)
	△△年製	2000年製 00年製 ? 1996年製 96年製* 及び 製造年表示の ないもの	↑

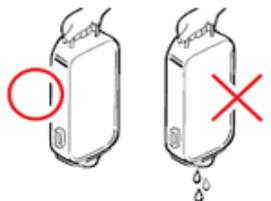
※ファンヒーターについては94年製以降製造年表示があります。

④使用者への注意喚起

対象製品をお持ちで、まだ事業者の行う無償点検及び修理を受けていない方は、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください。

また、事業者の行う無償点検及び修理を受けられるまでの間は、下図に従い給油口蓋が確実にロックしていることを御確認ください。

当該製品に限らず、石油ストーブ等に給油する際には、石油ストーブ等を必ず消火した上で、給油タンクの蓋を確実に締め、蓋が締まっていることを確認してから石油ストーブ等に戻すよう、正しい給油方法に従って安全に給油を行ってください。

<p>警告</p>	<p>給油時消火</p>	<p>危険</p>	<p>ガソリン厳禁</p>
<p>●給油は、必ず消火し、火が消えたことを確かめてからおこなってください。火災のおそれがあります。</p> 		<p>必ず灯油をご使用ください</p> <p>●ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。火災の原因になります。</p>	
<p>警告</p>	<p>油もれ危険</p>		
<p>●給油後、油タンクの給油口を確実にロックし、開かないことを確認してください。</p>		<p>●給油後は、給油口を下にして油もれないことを確認してからストーブにセットしてください。</p>	
<p>①確実にロック</p> <p>「パチン」と音が強く押すするまで強く押す</p> 	<p>②ロックの確認</p> <p>持ち上げて確認</p> <p>給油口をしめたあと、先端を指で持ち上げ、開かないことを確認してください。</p> 	<p>③油もれの確認</p> 	

【問合せ先】

株式会社コロナ お客様相談窓口

電話番号：0120-623-238

受付時間：9時～17時（土・日・祝日・事業者休業日を除く。）

ウェブサイト：<http://www.corona.co.jp/report/oshirase.html>

(3) 株式会社ハックが輸入したリチウム電池内蔵充電器について（管理番号：A201600607）

① 事故事象について

株式会社ハック（法人番号：9122001025591）が輸入したリチウム電池内蔵充電器を充電中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生しました。当該事故の原因は、現在、調査中です。

② 再発防止策について

同社は当該製品を含む対象製品（下記③）について、事故の再発防止を図るため、2016年（平成28年）11月4日に店頭告知するとともに、同月18日にウェブサイトへの情報掲載を行い、対象製品について製品回収及び返金を実施しています。

③ 対象製品：商品名、型番、色、販売期間、対象台数

商品名	型番	色	販売期間	対象台数
ギガバンク 10000mAh	HAC1078	ホワイト	2016年8月20日 ～ 2016年9月	1,400
パワーバンク 10400mAh	HAC1182	ホワイト	2016年8月29日 ～ 2016年9月	1,800
		ブラック		
		ピンク		
		ブルー		
合 計				3,200

2016年（平成28年）11月18日からリコール（製品回収・返金）を実施
回収率：30.6%（2016年12月9日時点）

<リコール対象製品での事故件数>

当該事故（管理番号：A201600607）発生以前の、対象製品におけるリコール対象の内容による2010年度以降の事故（原因調査中でリコール同事象と考えられるもの及びリコール事象かどうか不明なもの、並びにリコール開始の契機となった事故を含む。）の件数は、次のとおりです。これらは、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告を受けたものです。

年度	事故件数	被害状況	年度	事故件数	被害状況
2016年度	6	火災	2012年度	—	—
2015年度	—	—	2011年度	—	—
2014年度	—	—	2010年度	—	—
2013年度	—	—			

<対象製品の外観>



ギガバンク 10000mAh (HAC1078) パワーバンク 10400mAh (HAC1182)

④使用者への注意喚起

対象製品をお持ちの方で、まだ事業者の行う製品回収及び返金を受けていない方は、直ちに使用を中止し、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください。

【問合せ先】

株式会社ハック モバイルバッテリー返送係

電話番号：0120-976-089 (フリーダイヤル)

受付時間：9時30分～17時 (土・日・祝日を除く。)

ウェブサイト：<http://hac72.com/notice/news1>

(4) ユアサプライムス株式会社が輸入した電気ストーブ（カーボンヒーター）について
(管理番号：A201600610)

①事象について

ユアサプライムス株式会社（法人番号：6010001059673）が輸入した電気ストーブ（カーボンヒーター）及び周辺を焼損する火災が発生しました。当該事故の原因は、現在、調査中です。

②当該製品のリコール（無償点検・修理）について

同社は、当該製品を含む対象製品（下記③）について、強弱切替え用に使用されているダイオードが不良品であったことにより、ダイオードが異常発熱し、出火に至るおそれがあることから、事故の再発防止を図るため、2016年（平成28年）3月19日にウェブサイトへの情報掲載及び新聞社告を行うとともに、同日以降、販売店等への協力要請を行い、対象製品について無償点検及び修理を実施しています。

なお、今般報告のあった当該事故（管理番号：A201600610）が上記のリコール事象によるものかどうかは現時点では不明です。

③対象製品：製品名、型番、販売期間、対象台数

製品名	型番※	販売期間	対象台数
電気ストーブ (カーボンヒーター)	YA-C945SR (WH)	2015年9月29日	18,940
	KYA-C915R (WH)	～	
	YA-C900S (WH)	2016年2月20日	

※YA-C945SR (WH) 及びKYA-C915R (WH) はリモコンタイプ
YA-C900S (WH) はメカタイプ

2016年（平成28年）3月19日からリコール（無償点検・修理）を実施
改修率：25.0%（2017年1月20日時点）

<リコール対象製品での事故件数>

当該事故（管理番号：A201600610）発生以前の、対象製品におけるリコール対象の内容による2010年度以降の事故（原因調査中でリコール同事象と考えられるもの及びリコール事象かどうか不明なもの、並びにリコール開始の契機となった事故を含む。）の件数は、次のとおりです。これらは、消費生活用製品安全法第35条第1項の規定に基づき報告を受けたものです。

年度	事故件数	被害状況	年度	事故件数	被害状況
2016年度	2	火災	2012年度	—	—
2015年度	1	火災	2011年度	—	—
2014年度	—	—	2010年度	—	—
2013年度	—	—			

＜対象製品の外観及び確認方法＞
※本体正面の型番を御確認ください。

リモコンタイプ



型番
YA-C945SR (WH)
KYA-C915R (WH)

いずれかの型番が記載

型番
YA-C900S (WH)

メカタイプ



強弱切替用の
つまみあり

④使用者への注意喚起

対象製品をお持ちの方で、まだ事業者の行う無償点検及び修理を受けていない方は、直ちに使用を中止し、速やかに下記問合せ先まで御連絡ください。

【問合せ先】

ユアサプライムス株式会社 修理回収窓口

電話番号：0120-801-798

受付時間：9時～17時30分（土・日・祝日を除く。）

ウェブサイト：<http://www.yuasa-p.co.jp/wp/wp-content/uploads/2016/07/20160319.pdf>

【本発表資料の問合せ先】

消費者庁消費者安全課（製品事故情報担当）

担当：柳川、平野、清重

電話：03-3507-9204（直通）

FAX：03-3507-9290

経済産業省商務流通保安グループ製品安全課製品事故対策室

担当：下出、鈴木、植杉、高橋

電話：03-3501-1707（直通）

FAX：03-3501-2805

1. ガス機器・石油機器に関する事故(製品起因か否かが特定できていない事故を含む。)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201600604	平成28年12月25日	平成29年1月19日	石油温風暖房機(開放式)	GT-A30Y	株式会社コロナ	火災 死亡1名 重傷1名	建物を全焼する火災が発生し、1名が死亡し、1名が重傷を負った。現場に当該製品があった。現在、原因を調査中。	岡山県	平成29年1月13日に消費者安全法の重大事故等として公表済 平成20年9月17日からリコールを実施(特記事項を参照) 改修率:2.1%
A201600605	平成28年12月30日	平成29年1月19日	石油ストーブ(開放式)	RX-227	株式会社コロナ	火災 死亡1名	建物を全焼する火災が発生し、1名が死亡した。現場に当該製品があった。当該製品から出火したのか、他の要因も含め、現在、原因を調査中。	埼玉県	平成29年1月19日に消費者安全法の重大事故等として公表済

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201300110	平成25年5月2日	平成25年5月13日	扇風機	F-GA301	パナソニック エコシステムズ株式会社(輸入事業者)	火災	店舗で当該製品を使用中、火災報知機が鳴動したため確認すると、当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生していた。調査の結果、当該製品のモーターリード線に溶融痕がみられることから、短絡、スパークにより周囲の樹脂に着火したものと考えられるが、モーターリード線が短絡した原因の特定はできなかった。	神奈川県	平成25年5月17日にガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故として公表していたもの調査結果をもって平成26年7月7日に製品起因の事故として公表していたもの 平成29年1月24日からリコールを実施(特記事項を参照)

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故(続き)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201400238	平成26年7月14日	平成26年7月24日	扇風機	F-GA301	パナソニック エコシステムズ株式会社 (輸入事業者)	火災	施設で当該製品を使用中、当該製品を焼損し、周辺を汚損する火災が発生した。調査の結果、当該製品のモーター組み付け工程において、モーターリード線を首振り機構部に挟み込んだため、芯線の一部が断線するとともに、使用時の首振り運転に伴い断線が進行して接触不良により異常発熱し、モーターリード線の異極間で短絡、スパークし出火に至ったものと推定される。	静岡県	平成26年7月29日にガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故として公表していたもの調査結果をもって平成27年5月27日に製品起因の事故として公表していたもの平成29年1月24日からリコールを実施(特記事項を参照)
A201400356	平成26年9月1日	平成26年9月12日	扇風機	F-GA301	パナソニック エコシステムズ株式会社 (輸入事業者)	火災	ビニールハウスで当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。調査の結果、当該製品のモーターリード線が断線、スパークし、出火に至ったものと推定されるが、モーターリード線が断線した原因が過酷な使用状況によるものか、製造時の不具合によるものか、原因の特定には至らなかった。	茨城県	平成26年9月17日にガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故として公表していたもの調査結果をもって平成27年5月27日に製品起因が否かも含め、事故原因の特定には至らなかった事故として公表していたもの平成29年1月24日からリコールを実施(特記事項を参照)

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故(続き)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201600133	平成28年6月1日	平成28年6月17日	扇風機	F-GA301	パナソニック エコシステムズ株式会社 (輸入事業者)	火災	火災報知機が鳴動したため確認すると、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生していた。 調査の結果、当該製品のモーター組み付け工程において、モーターリード線を首振り部の部品に挟み込んだため、芯線の一部が断線し、使用時の首振り運転に伴い断線が進行して接触不良により異常発熱し、モーターリード線の異極間で短絡、スパークし、出火に至ったものと推定される。	岐阜県	平成28年6月21日にガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故として公表していたもの調査結果をもって平成28年11月7日に製品起因の事故として公表していたもの平成29年1月24日からリコールを実施(特記事項を参照)
A201600277	平成28年8月14日	平成28年8月26日	扇風機	F-GA301	パナソニック エコシステムズ株式会社 (輸入事業者)	火災	倉庫で当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。当該事故の原因は、現在、調査中であるが、当該製品のモーター組み付け工程において、モーターリード線を首振り部に挟み込んだため、芯線の一部が断線し、使用時の首振り運転に伴い断線が進行して接触不良により異常発熱し、モーターリード線の異極間で短絡、スパークし、出火に至ったものと推定される。	長崎県	平成28年8月30日にガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故として公表していたもの平成29年1月24日からリコールを実施(特記事項を参照)
A201600606	平成28年12月20日	平成29年1月19日	エアコン	CSH-EH4002	株式会社コロナ	火災	当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	山形県	製造から15年以上経過した製品事業者が重大製品事故として認識したのは平成29年1月16日

2. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因が疑われる事故(続き)

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	機種・型式	事業者名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201600607	平成29年1月15日	平成29年1月19日	リチウム電池内蔵充電器	HAC1182	株式会社ハック (輸入事業者)	火災	当該製品を充電中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	東京都	平成28年11月18日からリコールを実施(特記事項を参照) 回収率:30.6%
A201600608	平成29年1月6日	平成29年1月19日	エアコン	SRK25SI	三菱重工業株式会社 (現 三菱重工サーマルシステムズ株式会社) (輸入事業者)	火災	工場の事務室で当該製品を使用中、当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	千葉県	
A201600609	平成29年1月4日	平成29年1月19日	凍結防止用ヒーター(水道用)	SH-10	日本電熱株式会社	火災	当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	福島県	平成29年1月19日に消費者安全法の重大事故等として公表済 事業者が重大製品事故として認識したのは平成29年1月5日 報告書の提出期限を超過していることから、事業者に対し厳重注意
A201600610	平成28年12月9日	平成29年1月20日	電気ストーブ(カーボンヒーター)	KYA-C915R又はYA-C945SR	ユアサプライムス株式会社 (輸入事業者)	火災	当該製品及び周辺を焼損する火災が発生した。現在、原因を調査中。	兵庫県	事業者が重大製品事故として認識したのは平成29年1月11日 平成28年3月19日からリコールを実施(特記事項を参照) 改修率:25.0%

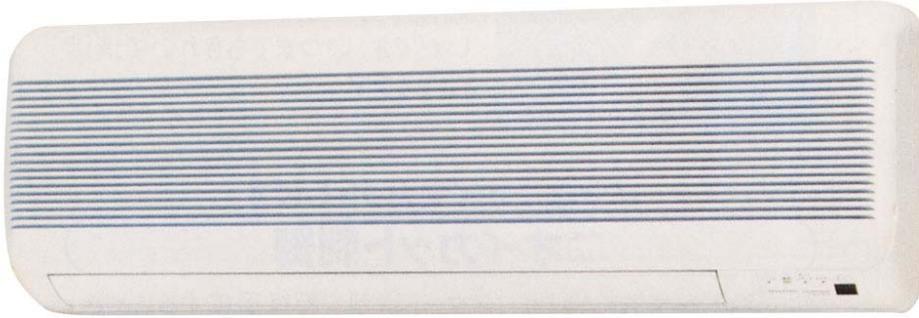
3. ガス機器・石油機器以外の製品に関する事故であって、製品起因か否かが特定できていない事故

管理番号	事故発生日	報告受理日	製品名	被害状況	事故内容	事故発生都道府県	備考
A201600603	平成28年11月5日	平成29年1月19日	靴(パンプス)	重傷1名	当該製品を履いて歩行中、転倒し、足を負傷した。事故発生時の状況を含め、現在、原因を調査中。	埼玉県	事業者が重大製品事故として認識したのは平成29年1月11日

4. 製品起因による事故ではないと考えられ、今後、製品事故調査判定合同会議において審議を予定している案件

該当案件無し

エアコン（管理番号：A201600606）



エアコン（管理番号：A201600608）



凍結防止用ヒーター（水道用）（管理番号：A201600609）

